

デング熱

潜伏期間	約3日～7日
発症頻度	10～50%
感染経路	蚊が媒体(ヒトヒト感染はない)
症状	発熱、発疹、頭痛、筋肉痛、関節痛など
経過	発症後2～7日で解熱しそのまま治癒する まれに重症化する(出血傾向、ショック症状)
治療	対象療法(有効な抗ウイルス薬はない) (アスピリンは出血傾向やアシドーシスを助長するため使用すべきでない。また、イブプロフェンなどの非ステロイド性抗炎症薬も胃炎あるいは出血を助長することから使用すべきでない)
感染症法	四類感染症

* 疑い事例は静岡県の環境衛生化学研究所で検査(PCR法)を実施します。

「窓口」 保健所

「依頼書」 病原体検査票(検査科にあり)

「検体」 血清 1ml

「デング熱を疑う目安」

Aの2つの所見に加えて、Bの2つ以上所見を認める

(A) 必須所見

1. 突然の発熱(38℃以上)
2. 急激な血小板減少

(B) 随伴所見

1. 皮疹
2. 悪心・嘔吐
3. 骨関節痛・筋肉痛
4. 頭痛
5. 白血球減少
6. 点状出血(あるいはターニケットテスト陽性)

* デング熱を疑ったら、時間内は感染管理室へ連絡下さい
(時間外対応の救急外来、検査科に依頼済み)

デング熱診療マニュアル(第1版)厚生労働省 参照

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dl/20140911-01.pdf>